

第2回 赤穂市総合計画審議会 会議録

1 日 時 令和7年3月18日(火) 15:00~16:12

2 場 所 赤穂市役所6階 大会議室

3 出席者

(1) 委 員

加藤 明、一瀬 貴子、目木 敏彦、安部 徹、大田 登、児嶋 佳文、
福本 俊弘、安原 浩一、水野 香保里、上原 明子、矢野 英樹、
磯本 歌見、横山 直美、勝原 建夫、島田 都羽

(2) 事務局

山内市長公室長、古谷企画政策課長、深澤企画係長、軀川主事
各所管課長 43名
(株式会社ぎょうせい) 竹本、山野、萩原

4 会議の概要

(1) 開 会

(2) 会長あいさつ

(3) 協議事項

2030赤穂市総合計画の中間検証結果について

(4) その他

5 議事の概要

市長公室長 定刻より少し早いですが、ただ今から、第2回赤穂市総合計画審議会を開催いたします。

本日の進行をさせていただきます、市長公室長の山内です。どうぞよろしく願いいたします。

はじめに、本日は委員全員にご出席いただいておりますので、赤穂市総合計画審議会規則第5条第2項の規程により、本審議会が成立することを報告いたします。

なお、この会議には、各所管の課長等をはじめ、赤穂市総合後期基本計画及び総合戦略策定支援業務の受託業者である株式会社ぎょうせい関西支社より、担当者に同席いただいております。

議事に入ります前に、本審議会の傍聴につきましてお諮りいたします。

会議につきましては、個人情報等を取り扱う場合などを除き、原則公開の取扱いとしております。

本日の議事内容は、お手元のとおりでありますので、会議の冒頭から傍聴を認めたいと思います。ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

それでは、傍聴の方にお入りいただきますので、しばらくお待ちください。

(傍聴者入室)

それでは、開会にあたりまして、加藤会長からごあいさつをいただきます。

会長

皆さんこんにちは。

本日は大変お忙しい中、第2回赤穂市総合計画審議会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。

本日は次第にもありますように、中間検証結果報告書についてご協議いただくということになっております。

市からも、各所管の幹部職員の方々に出席していただいておりますので、出席者が大変多いように思いますが、そういうことになっております。

委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきますとともに、今後ともお力添えを賜りたいと思います。

以上です。どうぞよろしく願いいたします。

市長公室長

ありがとうございました。

次に、前回、第1回の会議を所用でご欠席されておりました水野委員と上原委員より、自己紹介をお願いいたします。

(委員自己紹介)

それではここからの議事進行につきましては加藤会長にお願いしたいと思いません。お願いいたします。

会長

それでは、議事を進めたいと思います。よろしく願いいたします。

次第の3、協議事項に入ります。

協議事項の(1)2030赤穂市総合計画の中間検証結果について、事務局から説明をお願いします。

事務局

中間検証結果報告書についてご説明をさせていただきます。

資料「2030赤穂市総合計画 中間検証結果報告書」をお願いします。

まず、1ページをお願いします。「2030赤穂市総合計画」の後期基本計画の策定に向け、これまでの前期5年の計画期間の事業の進捗状況等の検証を行うため、この度、令和3年度から6年度における各施策の進捗状況について、中間検証結果報

告書としてとりまとめました。

評価を実施する対象としましては、総合計画を構成する4つの柱、「安心」、「快適」、「元気」、「人」に紐づく、政策、施策ごとに、すべての「施策の展開」項目、111項目を対象に、各所管課自身が計画の進捗評価を行っております。

次に、2ページをお願いします。

計画の進捗評価は、「A」から「E」の5段階で評価を行い、それぞれの評価点を1点から5点として点数化し、満点を100点として換算を行いました。

3ページをお願いします。

(3)の進捗評価について、その評価の結果としまして、総合計画の4つの柱の、全体の平均値は、78.7点でございました。

4つの柱ごとの評価としましては、その下、(4)柱の評価として、グラフにお示ししている通り、「元気」と「人」につきましては平均値を上回っておりますが、「安心」と「快適」につきましては平均値を下回っているという結果となっております。

前のページ、2ページに戻っていただいて、一番下の欄、各施策の展開項目数ごとの評価ですが、計画通り達成できる「A」評価、及び達成できる見込みの「B」評価が、併せて全体の80.2%を占めておりますが、計画通りに進捗しておらず、中間年度である令和7年度において、未達成となるおそれがある「C」評価の施策の展開項目数は22となっております。

これらの未達成となるおそれのあるC評価の22の施策の展開項目については、7ページから28ページにかけて、それぞれ事業ごとに、未達成となる理由や後期に向けての課題を、項目ごとに明記しております。

次に、4ページに戻っていただきまして、(5)として政策の評価、次の5ページから6ページにかけ、(6)施策の評価について、それぞれ政策、施策の項目別に数値化を行い、グラフ化をしております。

次に、29ページから30ページをお願いします。

こちらにつきましては総合計画で示されております「目標指標」の一覧です。

各施策の目標指標ごとに直近までの実績数値を記載しています。

31ページから108ページにかけては、施策1から施策27のすべての施策の展開項目ごとに、各所管課による評価、前期の主な成果、後期への課題という区分で検証を行っております。

今後、この中間検証結果報告書における各所管課の検証を踏まえ、後期基本計画の具体案を作成することとしております。以上です。

会長

さっと聞きましたので、なかなか読み込みが大変だと思いますが、これから深めてまいります。

ご意見、ご質問等ございますか。

委員

例えばBとかAとか、積み上げていく数字は達成できているんですけども、毎年ゼロから新しいものを作っていくという項目については、ほとんどまだ達成でき

てないような気がします。

それと 16 番の認定農業者数、認定新規就農者数とか、計画自体が 1 人増やすとか、項目によっては意欲的にされているところもあるが、どうでもいいというところについては、ほとんど計画の時点からやはり進んでない。

計画が低くても、意欲的にやっていたら問題ないんですけども、計画が低いところは、初めから全く進んでいないという状態で、この計画を立てたときの細かいことはよく分からないんですが、本当にみんながやる気になってやっているのかどうか。

例えば市民病院。これだけいろんな問題を抱えているにも関わらず A とか B 評価です。確かにこの課題についてはやっているかもしれないんですけど、これだけやっていたら市民病院はもっと、市民の方から信頼されてすばらしい病院になったな、医療についても問題ないな、というふうになっているかもしれない。数字は B とか A 評価とかにも関わらず、実態はそうでない。

デマンドタクシーの利用者数でも、基準値が 338 人で実績が 384 人。これだけ何年も経って、本来はもっともっと増えてこないといけないのかも分かりませんし、何が問題か分かりません。不便なのかもしれませんが、目標に対しては全く乖離してしまっている。

市内循環バス利用者、これは幾らか増えたのかも分かりませんが、僕にしてみたら 100 円を 200 円に上げるとして、免許の返納者を 50% 引いて 100 円にしましょうとあって、非常に僕自身が前から思っているんですけども、計画自身、目標自身を立てたときとか、途中でもいいですから、これはだめだなというのも見直してほしい。ただ単に数字の羅列でやっていけばいい、という感じに見えて仕方ないんですが、どうなんでしょう。

会長 市の方から解説をお願いしますか。

事務局 さきほど、事業の進捗評価につきまして、それぞれの所管に対する目標、それから進捗状況の評価についてご意見いただいているところなんですけれども、評価の高いところもあれば、中間期における目標に対して C 評価になったり未達成になる恐れがあるという事業もございます。

その要因につきましては、今、まさに中間見直しを行っている最中で、当初の目標自体が、高すぎる設定だったのか、若しくは、かなり低い目標だったのか、ということも含めまして、分析、精査を進めながら、次期の後期計画の方に反映させるという作業を今後進めて参りたいと考えてございます。

会長 例えばここについては、という例をお願いします。

事務局 企画政策課に関してお話があった、デマンドタクシーですとかバスの運賃の関係につきましては、目標に対しての数字がこれからどういう形で推移していくかとい

うのは今後いろんな状況の中で見極めていく必要があります。

当初の数値的なものを今一度、見直す必要があるのかどうかも含めて精査しながら、目標の設定をしていきたいと考えてございます。

また公共交通の部分につきましても、ご指摘のあった通り、昨年10月から運賃を200円に改定したというところで、今後の乗車人数につきましては推移を見ながら、どんな形で影響が出てくるかということも検証しながら、目標を数値化していきたいと考えてございます。

委員

これ、1年1年、もっと細かく見直しができないものなのですか。

3年経って4年たつてこの数字だからじゃなく、答えがもう少し短い期間で出てきたらいいような気がするんですけど。

事務局

おっしゃる数値については、総合計画の基本計画になりますので、中間の5年間ということで数値を計上させていただいておるところです。数値的なものを毎年見直すという形ではないんですけれども、毎年の進捗状況は把握しております。

毎年、目標値を変えるというものではないですけれども、常に数字の推移を見ながら、計画の進捗状況は把握していきたいというふうに考えてございます。

会長

今回が真ん中のところでしっかり見たところなので、この後は、1年ごとに見ていきながら改善して行って、終わりよければ、というふうに持っていくということですよ。

あと、市民病院の話はなかなか難しいんですけれど、そこのあたりは事務局としてはどういうふうを考えているのか、お答えいただけますか。

評価はすごくいいけれども、実態は違うというふうなことだったと思いますが、市民病院のところは何ページですか。

委員

49ページから50ページですね。

会長

担当の方、お願いします。

事務局

病院の方からお答えをさせていただきます。

病院の施策の目標というところなんですけれども、今回お答えさせていただいたところは、主に救急医療体制の充実と、市民病院の安定運営というところになります。

救急医療体制の充実というところにつきましては、前期の目標が、緊急応需率80%以上、救急車年間受入れ台数2,000台というところを目標に取り組んでおりましたので、これにつきましては、おおむね目標を達成しているということで、問題はありますが、そのような形で評価させていただいております。

あと、市民病院の安定運営というところにつきましては、病院の経営改善というところは、なかなか当初の目標どおり進んでいないというところを含めまして、安定運営というのは病院の経営改善ということではなくて、地域の中で、病院、医療提供体制をどうしていくかというところに絡んできているかと思っておりますので、市民病院の健全経営というところを C とつけさせていただいているところでございます。

会長

はい。いかがでしょうか。

一生懸命考えているんな施策を打っていただいているっていうのは分かるんですが、これからやっていくということでもあります。

委員

本当にこの紹介件数、逆紹介件数、健診センター利用件数というのが、市民が安心できる地域医療体制を作るという課題に沿ったものかどうか、というところが、結果的にこういう答えになってきたんじゃないかと思えます。

前日も市民病院のことを言いましたが、緊急搬送は増加傾向にある。これはよく分かるんですね。でも、当院の受入総数の増加は少なく、受入率が低下しつつあるとあります。病院へ行ったからそれで市民は安心したのかもしれないですが、逆に言えば、市民は安易に、この救急搬送を取り入れているということではないですか。

でも本当にこの問題が、市民が安心できる地域医療体制作るという課題に対する目標になったのかどうかという感じです。これだったらできるのではないかという感じの計画じゃなかったのかなと思えますが、目標の 80%以上超えているから、これはこれで B なのかも分かりませんが、何かもう少し他の目標もあったんじゃないかなという気がします。

ですから、この項目の中で達成率というふうにとらえたら、そうかも分かりませんがね。

その裏に介在するものを考えず、ただ単に出てきている数字だけで、B や A の評価してはだめなんじゃないかという気がします。

会長

はい。

目標の見直しから入ると、また 1 から変わってしまうので、これは厄介なところなんですけれども、実際には、P D C A にしろ、P P D A にしろ、目標そのものを見直すということは可能なんですけど、この体制の中では、なかなか厄介なことなので、臨機応変にしながら最終的にいいところに着地して欲しいなとは思っています。

農業関係のことはどうですか。

事務局

失礼いたします。農林水産課でございます。

先ほどの認定農業者の関係でございますが、年間に数名程度、新規に就農される若手の方もいらっしゃるんですけども、一方では高齢化によって、農業を辞める方もいらっしゃいますので、結果的には横並びに近いような数字になっております。

できるだけ、我々としては農業者を増やしたいという思いで、県の農林事務所等とも連携しながら支援しているところをごさいますて、今後も続けていきたいと思ひます。

会長 これは民間の方とも上手にタイアップしなきゃいけませんので、全国的な問題でもありますけれど、この方向でいくということですね。
他にありますでしょうか。どうぞ遠慮なく。

委員 前回、赤穂市が持っている魅力の再発見をしてみませんかというふうな意見を出しました。ですので、本日はそれに関する質問をしたいと思ひます。
達成度が高い項目の1つとして、歴史や文化、スポーツを通したコミュニティの構築というものがあるんですけども、赤穂市にある観光資源などに関するPRとして、今一番力を入れておられることはなんでしょうか。教えていただければと思ひます。

会長 担当課、よろしくお願ひします。

事務局 失礼いたします、観光課です。
先ほど歴史とか文化とかいうお話がありました。一般的な話になるかも分かりません。
赤穂の魅力というようなことで、例えば、瀬戸内海国立公園の風景でありますとか、それから、赤穂城をはじめとしまして、2つの日本遺産というふうなことで認定を受けております。
これらの魅力につきまして、観光協会さんとか、DMOあこう魅力発信基地、これらの情報発信力を使いながら、取り組んでいるところをごさいます。

委員 ありがとうございます。
私もちょっといろいろと魅力のほうを考えてきたんですけども、まずは温泉とか、きらきら坂の宣伝ということでインスタの活用などをされたらいいかなというふうに思ひましたし、また子どもたちが赤穂市の魅力を考えている絵マップコンクールっていうのが長年されてきたので、歴代の絵マップからの魅力の再認識という観点で、子どもたちの視点からすごく素敵な作品が出ておりましたので、そういったものを取り上げるというのも1つの手かなというふうに思ひました。
それから若い方に聞いてみますと、結婚して3年住むと市の方から補助金が出る制度っていうものがあるんですかね。もしそういうものがあればPRをもっとすればいいのではないかと考えてみました。
あと今、ル・ポンを赤穂市でしていただいておりますけれども、ただル・ポンを開催するだけではなくて、市民の方が参加できるような、ガーデニングコンペティションなども開催されてみると、市民の方が一生懸命赤穂市を綺麗にしてください

て、その成果がル・ポンを観ていただいた方に届き、またその還元があるというふうになるかもしれません。そんなこととしてみてはと思いました。

あとは、高齢者の方々も参加できるようにということで、総合体育館のスポーツの量とか質の充実とか、あと義士マラソンですかねマラソン大会もまだ幾つかあるのかなと思うので、そういったものを開催する。それから最後になりますが、お店のPR、例えばイチゴのフルーツパフェというふうなものが、駅に貼っていたりしましたので、そういうところも赤穂の魅力かなあとと思ひまして、そういったものもアピールされるといいのかなというふうに私個人は思ひました。

会長

はい。具体的な施策が大事ですので、少しまたぜひ参考にしてください。

これはちょっと文化協会の方から、委員に出てもらっていますので、お願いします。

委員

文化協会に限らずいろいろなまちづくりや、仕事でいろんなイベントに携わっている中で思うことは、忠臣蔵っていうのは全国ネットです。私は昨日も大阪の朗読会に参加して、赤穂市教育委員会が作った紙芝居、赤穂義士絵物語大石内蔵助というのを、朗読させていただきました。

その際も、全国から参加する会だったので、法被も着まして、印象づけるために、大阪だったので、新快速の終点、播州赤穂から参りましたといひました。やはり全国区で、PRできるのは忠臣蔵ではないかなと思ひたのです。やはり皆さんご存知だったので、そういったところも赤穂にしかない、歴史的な財産だと思ひんのですね。

なので、今、若い方が御崎、坂越をすごく注目して、たくさんの方が来られておりますが、お城の周辺が寂しいのではないかなと思ひます。なので、ぜひそこも併せて、魅力を発信していただければいいんではないかなと思ひます。

会長

ありがとうございました。

本当に赤穂ってストーリーがいっぱいあるんですよ。それを若い方がご存じないというところがなかなか難しい。実は大学でも、赤穂の名所旧跡を辿るということで、この2月にバスの交渉もして始めたんですけど、集まる学生の数が少なすぎて、随行の先生の数の方が多いというふうなことになりまして、残念ながら今年度は諦めて、来年度にもう一度しようかと言ひています。

だから、関西福祉大に来た学生にももうちょっとしっかりしなきゃ、せっかく来ているのにもったいないな、というふうなこともありますので、もう少しいろんな形でそういうことをしてくださいってことです。我々もしますが、双方向で、情報というか事例をお互いに共有し合うというようなこともないと、なかなか活力が出てこないと思ひますので、またこれも考えてください

はい。他にどうでしょうか。

委員

観光のお話が少し出ましたので、観光つながりでちょっとお聞きしたいことがあ

りまして。

82 ページをちょっと見ておりまして、施策 18 ということで魅力と集客力のある観光を振興するというところで、一番上の目標指標というところで、2025 年度の目標値は 290 ということで、2023 年度よりも、宿泊者数としては、目標値が低いのはどうしてかなっていうふうに思いました。

それからですね、坂越、御崎を重点エリアということで、メインターゲットを 20 代 30 代に向けているってということなんですけれども、私の友達を連れてくると、50 代 60 代とかの友達が多いんですけれども、みんなすごく喜んでですね。メインターゲットを 20 代 30 代ってしなくても、やはりお金をたくさん持っているのは 50 代 60 代以降かなとも思いますし、宿泊者数ってというのは宿泊をしてくれてこそお金を落としてくれるのではないのかなと思うので、もう少し宿泊者数についても、高い目標設定をされた方がいいんじゃないのかなっていうふうに思いました。

会長 市の方から何かありますか。

事務局 観光課です。宿泊者数の目標値、それからターゲットのお話かと思えます。
宿泊者数の動きにつきましては、令和 4 年、令和 5 年と、数値が伸びております。これについては、統計値をとる場所を整理した結果です。丸山県民サンビーチの数字がある程度正確に取れるようになったということがあります。キャンプによる宿泊、これを宿泊として入れております。
数字の方は今のところ、やはり一時期のブームといいますか、それも加味しまして、若干落ちてきていると見ておりますので、当初の 29 万人を目標にしたいというふうに考えております。

それからメインとターゲットの年齢層等のことをございますけれども、ご指摘のことも 1 つの重要な考え方だと思います。一方で、旅行を積極的にされていたり、例えば家族連れなどの若い層を、観光から移住、定住にもつなげたい、というような部分も少しございます。ただ、幅広い年齢層の方に来ていただいて、宿泊など個々の観光消費額を多くすることを目指していきたいと考えております。

会長 いろいろやって何が当たるか分かりませんので、ぜひ、いろいろやってもらってという形になろうかと思いますが。
他にいかがですか。

委員 ワークショップをやっておられるんですけれども、参加者はどういう年齢層の方が出られたのかっていう資料はありますか。
というのが、市に対する要望をまとめておられますが、施策の要望などで年齢層が分かればと思います。
それとあと 1 点、非常に見にくい報告書かなと私は思いました。
感じたのは、C 評価をつけているのは、ほとんどの項目で具体的な数値目標を掲

げているものが、1つを除いてC評価。そのC評価のところを読みますと、前期計画期間内の評価については、かなり成果があったというような表現をされているので、これだったらB評価かなと思ったら、具体的な数値を決めているから、それを達成しないからCとつけられていると思います。

逆に考えたら、具体的な数字を持ってないところは難しいのではと思います。なかなか施策というのは全部具体的な数字で表すのが難しいものあるので、難しいと思うんですけども、そういう評価は所管の方でやられていると思うので、どうかな、と感じました。これは感じただけですので、各所管頑張ってもらっていると思います。

私は福祉の方に関係しているんですけども、最初の方は福祉に関係することばかりで、ボランティアの数が減っているとか、通いの場の問題、確かにうちの方も、ボランティアセンターの事務局やっているんですが減っています。

それから、人数にしても減っています。それからボランティア協会があるんですけども、こちらの方も減っています。それと高齢化しています。なかなか新しい方に入っていただけなくて、毎年平均年齢が1歳近く上がっているんじゃないかなと。その辺も力を入れていかないといけないのかなというのが1つ。

それから、前回言いましたけど、各地域、それから各団体の横の連携っていうんですかね。特にやはり地域の繋がりということ、再構築するんだということ、やはり力を入れていかないと、活性化ということがよく使われますけども、そこに繋がっていかないんじゃないかなと感じています。

やはりいろんな団体が今なくなったりしてますんで、そこら辺の危機感持って取り組んでいく必要があるんじゃないかと、いうふうに感じております。

会長

全体的ないい視点を指摘していただいたんですが、これについて該当の部署の方から報告してください。

事務局

まずワークショップの年齢構成なんですけど、具体的にその何歳が何人というデータは今手持ちにないんですけども、3回開催いたしまして、20代の方から上は80代の方まで、広い年齢層の方々にご参加をいただいたというところでございます。

ワークショップで忌憚のない生のご意見ということで、お手元にもワークショップの結果をお配りさせていただいているんですけども、若い方のご意見も含め、また年配の方からのご意見も含め、いろんな意見をお伺いしたという状況でございます。

あと評価の関係のお話ですけども、確かにご指摘の通り、事業の内容としては、非常に進捗している達成度が高いと思われるものであっても、目標指標を設定している関係で、指標に対して達していないということで評価がCとなっているものもございます。

また、逆のパターンもあろうかと思えます。指標はないが、実際に評価としての

進捗度合いを勘案して、B評価、A評価となっているものもあろうかと思えます。

これも繰り返しになるんですけども、この見直し結果報告書を作るにあたって、現在の目標、それからそれに対する現状をお聞きする中で、今後の後期計画の方で内容も見直しが必要かどうかを含めて、精査をして作り上げていきたいというふうに考えてございます。

会長 はいどうぞ。

委員 ありがとうございます。

ワークショップのところで、関心が高いということで子育て支援、高齢者施策、それから防災というのもあるんですけども。これは私が個人的に思うのですが、確かに高齢者が生きがいを持って健康に過ごすことができる施策。これは大切なことなんですけれども、やはり今年 2025 年、いわゆる団塊の世代がすべて後期高齢者になっていった。これから 2040 年問題を迎えていくので、介護が必要となった方が、誰もが介護を使える方が大事かなと。

確かに健康年齢を伸ばすというのは大切な施策なんですけど、やはりどうしても人間歳を取りますので、やはりそういう不安もかなり市民の方は持っておられるし、これから増えていくと思うんで、安心して介護が受けられる体制づくり、今もされてると思うんですけども、これから増えてくるということを念頭に対応していただきたいなと思えます。

会長 今のことについてはよろしいですか。市の方からはないですか。

事務局 今ご指摘いただいた点、冒頭申し上げた政策の中のいわゆる、安心の部分での評価が平均点よりも低くなっており、委員の言われた内容を担当の方も踏まえた上での評価になっているものと思えます。

今回の評価と委員の皆さんの意見も踏まえて、計画を立てていきたいと考えてございます。

会長 今のご指摘の中にも、だんだん高齢化するというところで、いろんな団体が団体として成立しなくなるという、これは同じようなことを経営者からお聞きしたことがあるので、そういうことに対して行政がどこまでできるかっていうところはなかなか難しいところがあるんですけども、何か皆さんの方でご意見ありますでしょうか。

これは赤穂だけの問題じゃなくて、もう全国的な問題なんですよね。

委員 やはりいろんな事業に取り組むんですけども、同じような世代だけじゃだめなんで、多世代、3 世代っていうのをやってるんですけども、なかなか定着していただけない。

やはり、リーダーの後継者っていうのがなかなかうまく引き継いでいけない。最

初立ち上げるときはかなり熱心な方が集まって、うまくできるんですけども、その後継者というところで、なかなかうまくいかずに、その団体を解散してしまうという事例は見受けられます。

だからそこら辺何とかできないかなといういろいろ考えるんですけど、難しいですね。

会長

民間と行政とがここはタイアップしないとなかなかうまくいかない。難しい問題ですよ。確実に1歳ずつね、年齢は上がっていきますので。

いかがでしょうか。

委員

参考になるかどうか分からないんですけども、私が知っている他のところでは、生きがい就労事業っていうのをされているようで、高齢者の方でも、何時間か働くっていうことはすごく生きがいに繋がっているっていうふうなことなんですけれども、例えば農業事業とかミニ野菜工場事業とか、それからコミュニティ食堂。それから保育や子育て支援の事業、学童保育の事業等々、そういったところに、週に2、3日で2時間から4時間程度働いているというふうなことで、ただボランティアとして働くのではなくて、きちんと賃金をお支払いするというシステムづくりをされているところなどもあるようなので、またそうしたことも赤穂市でも考えていただければありがたいというふうに思います。

会長

そうですね。ボランティアというわけじゃなくて、やはり少なくともしっかりその責任を持ってもらうというのは、とても大事なことなんです。

委員

私もボランティア協会とか社協のボランティアセンターに登録をして、ボランティア活動をさせていただいてるんですが、本当にボランティア協会自身も、存続の危機になるぐらい、団体数が減ってるのは事実です。

31ページを見させていただきますと、この福祉ボランティア登録数を、2025年度目標値を672で、2030年度には722とされています。大幅に目標を上げていただいておりますが、そういう取組が必要であるとされるということですが、これは今、社会情勢的に非常に難しいと思うんです。

なぜかという、まず若い世代の方で、子どもさんが1歳になると、ほとんどの方が働いてますね。昔みたいに家にいて専業主婦っていうのはもはやもう昭和のことで、今の令和の時代で、そういった方っていうのは、ほとんどいなくなっている状態です。また高齢者の方も60歳を迎えて、60歳からまた何か、ボランティアとか趣味を始めるという方が少なくなっています。皆さん働いていらっしゃいます。そういった中で、どうやってこの人数を確保するのか、この数字の根拠を私は疑問に思ったんですね。

それに関連して申し上げるなら、37ページ、子育て支援のところに、子ども食堂っていうのがあるんですが、先日市外の母親クラブとか、子ども食堂を運営している方の子育て研修会があって、私も司会を頼まれて行ったのですが、非常に子ども

食堂の運営は、皆さん大変困ってらっしゃいました。

まずは、やはり資金面の問題、その少ない資金の中でどうやって運営していくのか。また、さっき言ったボランティアの確保。そういったところですごく苦勞をされていらっしゃいました。もちろんそこには市の担当の方もいらっしゃって、一緒にこれから、そういったところを考えないといけないねという話もしました。

ここも目標値を確か上げられていますよね。居場所づくり 10 とされています。これ非常に厳しいと思うんですね、民間頼みだけど民間もそういった状態。で、さっきの後継者問題、地域の関係が希薄になっている中で、どうやってそういったことを、これからの若い人が興味を持ってやってもらうかっていうのが、自然にできていた時代ではなくなっていくなというのはすごく実感します。

そういった中で、ちょっとこの目標値が高すぎるんじゃないかと。何かもう少し見合った目標値とか、何か今の時代に合ったやり方っていうのを見直せる、これからの5年間、見直していかなければ、それはもう赤穂だけではないと思うんです。

日本全体社会の問題だと思いました。

会長

大きな問題なのでなかなか大変なんですけど、先ほどの 31 ページのところも、福祉ボランティアの登録数を 50 増やすというふうなことですよね。

この辺がちょっとやはり、どういう見通しでこういう数値が出てきたのかっていうのは、何か補足ありますか。

あるいは同じような、子ども食堂云々のこの子どもの居場所づくりというふうな、33 ページのところも目標値 15 っていうのは、数を上げてくるそれなりの方策というかね、この辺りの議論はどんな形になってきたのかなあというのは、いかがでしょうかね。

事務局

すいませんちょっと全体的な話の中で目標値の話が出ておりますので、補足させていただきますと、今まさに後期計画作成に向けた内容を見直しする中で、当初設定していた目標値の見直しも検討しております。現況と 5 年前と当然違ってきてございますので、そこら辺を含めた見直しは現在進めているという状況でございます。その点補足させていただきます。

会長

数の見直し云々よりもどういうふうにして、現状維持あるいは増やしていくかという方策なんですよ。

その見通しがあった上で数が出てくるわけで、初めに数ありきの話ではないんですよ。評価も B C とすると、どうしても我々 C の方に目が行くんですが、B と C の間のところも実はありましてね。その辺のところ、この C がうんと前に出てきて、これはそこに注目して話すんですが、要はこの C にしろ B にしろ、やはりどっちにしても、具体的な方策が要るんですよ。この辺を市ではここまでにするけれども、ここは民間でお願いしたいというふうな形のものを持ってくると、赤穂市は元気になるんじゃないかな、と思うんですよ。

その辺も含めてちょっといろんなご意見ですよ。子ども食堂がこれだけ話題になるっていうひとつの理由は、家庭の中でなかなか子どもの世話がしにくいっていうことですか。

委員

聞いていたら、共稼ぎの世帯が増えて、お父さん、お母さんが仕事から帰ってくるまでに、子どもさんだけで家にいるっていう家庭は確実に増えていると思うんです。

そんな子どもさん方が、月に1回とかせいぜい月2回とかだと思んですけども、子ども食堂っていうのは。そういうところに行って、ご飯を食べるだけが目的じゃなくて、要はコミュニケーションの場があって、聞いたら、塩屋地区は100ぐらい子どもさんが来てる。親子で来たりとか、そういった役割を担っていると。私もあまり詳しくは分かりませんが。

会長

子ども食堂と同時に、保育所とか幼稚園とか、そういうふうな保育の時間の延長だとかやはり総合的に考えないといけないんでしょうね。

うちの大学でも子ども食堂、実は社会福祉学部がやっております、宿題も見ますというふうになってるんですが。結構たくさん来るんですよ。

一瀬先生、その辺どうですか。社会福祉の子ども食堂のお話は。

委員

そうですね、大学の方で、100人ぐらい子どもさんが来てくださるっていうふうには伺ってますし、またフードバンクとかにも登録されたっていうふうにも伺っております、すごくニーズが高いのかなと思っております。

会長

こちらの方はね、学生もいい勉強にもなって喜んでやってるんですよ。だからそういうところに学生を派遣するっていうこともね、いろいろ言っただけじゃ、そういうふうなことをやろうと思って、そういう志で入ってる学生が多いのです。

まさに横の連携ですよ。そういうふうなことをやれば、赤穂で学んだことの手応えっていうのも出てまいりますので、その辺も民間だけじゃなくて、市の方で音頭を取ってもらうというのも、これからのいい形になるんじゃないかなというふうに思いますね。

他にいかがでしょうか。

委員

中学校の部活動の地域移行ということでお話があるんですが、本市としては、スポーツ離れにならないためにどういった取組をしているのかなっていうのをお聞きしたいんです。

というのが、私の時代だったらいろんな運動とかしてる時代だったんですけども、そうじゃなくてスポーツをする子どもたちが減ってきて、勉強とかそっちの方に進んでしまっていて、体力的に低下する子どもたちがすごく増えてきてるんです。

その子達が大人になった時のことを考えると、やはり体力維持があることによっ

て、長生きも出来るということですが、そういった子どもたちの体力が今だんだん低下してきているんで、赤穂市としてはどういうふうな取組をしているのかなって、こののをちょっとお聞きしたいです。

会長 担当、お願いします。

事務局 学校教育課です。

部活動の地域移行ですけれども、本年度1月以降、取組を進めてるところであります。アンケートを小学生、中学生、そして保護者の方々にとったときに、スポーツだけではなくて、やってみたい取組の中に料理とか、eスポーツであったり、スポーツのみならず多様化をしているなというところが、現在感じてるところです。

部活の地域移行の趣旨としましては、子どもたちがそれぞれに取り組みたい活動というのを、今のうちに準備をしておいて、そして社会活動の中で子どもたちが、活動していくということを趣旨としております。

ですので、そういった人数等を今後、調査していきたいと思っております。

また体力向上につきましては、こちら各体育部会で、小学校、中学校連携をしております。例えば小学校の朝の時間のところで、遊びを中心として鬼ごっこをするといったような取組等ありますので、そういった取組等が、どうすれば中学校に共有できるのか、どうやったらその体力づくりに繋がっていくのかということにつきまして、深めていきたいところでもありますし、また学校だけでなく家庭の方でも、どうすれば体力を向上させられるのかということで、保健だより等を使って啓発をしていくということも継続してまいりたいと思っております。

会長 これ、体力測定については、文科省の方でもやっていますよね。
赤穂市はどんな状況なんですか。

事務局 赤穂市につきましてはその目標のところC評価をつけているんですけども、実は指標のところ、令和6年度で3.5割の達成率ということになっておりますので、特に50メートルを走るところであったり、跳躍のところ少し、若干なんですけど数値が低いところがありますので、そこは課題として共有していきたいと思っています。

会長 これも全国的な問題でして、受け皿をうまく使わないとなかなかうまくいかないし、うまくいけば他の市に先駆けていいことができる。

それでまた、市民が元気になれば、それはありがたいことなので、ある意味では、正念場です。地域活性と色々なことがもう総合的にうまくいけば解決するのですが、可能になるというふうなことであります。

他にいかがですか。

委員

個人的に、新田から西部で月末に集金をしているのですが、お年寄りの方が本当に多いですね。

その中で、私はおしゃべりですので、待ってくださっているお年寄りの方が、本当にたくさんいらっしゃいます。中で男の方のところに行きましたら、赤穂市の民生委員ってなっていないという話をちょっとされましたね。

それはどういうことかといいますと、民生委員さんは年末に独居老人の方にお餅を持っていかれますね。そうすると、もう手渡しだけして、そそくさともう帰っていかれます。

そうじゃないんじゃないですか。やはり、何か困ったことないんですか、どっか調子悪くないですかとか、そういうふうに関心、まごころというものはお金で買えませんので、やはり親切な言葉というものは心を打たれますっていうことを言っておられますね。

ですから、私はちょっとおせっかいですから、もしまた何かあったら、私の経験も知ってますので、何かあったら電話してちょうだいね、いつでも飛んでくるからねって言ったら、ありがとう、また相談乗ってねって言われることもあります。

本当にお年寄りというのは、テレビばかりとか一日話できないと口がおかしくなる。ストレスがたまっておかしくなるという方が本当に多いですね。そういうふうなところで、民生委員さんは、赤穂市が委嘱いただいている方だと思います。いくらかの少しのお手当も出てるんじゃないでしょうか。

民生委員さんが、もっともってね、心を開いて、そんなしょっちゅう行かなくてもいいですから、独居老人の方に優しいお言葉をかけて、困ったこととか、どこか調子悪くないですかとか、優しい言葉をかけていただける民生委員さんであって欲しいなと思います。皆さんどう思いますか。

委員

今のお話ですが、民生委員の皆さんも一生懸命されているんです。

今、民生委員をされておられる方もいらっしゃるかもしれませんが、基本的に今年の11月また改選で皆さん変わって、もう半分の人が辞めて、半分の人がやりたくないって言う状況なんです。

我々自治会もそうなんですけど、基本的にボランティアなんです。そこを余りに求められると、要求ばかりをただひたすら聞くようになってしまうというのは、そのボランティアでやってる職務を、皆さんがやりたくなくなってしまうというのが今の起こってる現状なんです。

ですので、お気持ちはすごく分かるんですけど、民生委員さんは非常に細かく、活動もされてますし、それこそ今ただ1人おっしゃっておられる方がすべてのようにこの場でおっしゃるのはちょっとどうかな、と思いました。地域のいろんな役をする人がもうやりたくないですよ。

だから行政の皆さんはよく分かっておられると思いますけど、団体がなくなるといこと、それぐらいボランティアの人数がなくなっているということなんで、要求するようなことばかりではなくて、お互いに協力しましょうというようなスタンス

やないと、このままいくと多分自治会もなくなってますよ。

だからそういう状況の中で、頑張っておられることについては、フォローしていただける、もちろんそういった、やさしい言葉は大事なんですけど。こちら側の立場に立って、ちょっと見ていただくスタンスもないと、ボランティアをされてる方々が、誰もしなくなります。

申し訳ないんですけど、そういうこともあるということだけ分かっていただきたくて発言しました。

委員 すみませんでした。

会長 前向きのご意見をお願いします。

委員 その意見を聞いたら、ちょっと胸が痛いんです。
実は私もたくさんの高齢者世帯の方見てます。
そしたら、1人の方の話を聞いていたら、どうしてもその場所離れられなくなってくるんです。

それで、今言った民生委員が何か持っていったときにすっと渡して、すぐ帰ったという気持ちも分かるんです。

話を聞いてたら話が長くなるんです。時間的なこともあるので大体何時ぐらいに行きますということも、私は事前に自分の担当のお年寄りには言ってますんで、時間を見ながらやるんですけど。

また何かあったらもうゆっくり話しするから、いつでも電話かけてきて、とっております。

民生委員は、1年2年じゃ話になりません。僕は民生委員をやって初めて分かりました。これはボランティアです。

今までそういうことの経験が一切なかったから、初めは女性の方には少し一歩後ずさりされました。それに慣れるのが3年。

それで、4年目。民生委員は1期3年ですから。2期目ぐらいになって、ちょっと冗談を言えるようになる。今私も4期目に入っているんで、年寄りに関しては、地区では私は、あの方が来てくれてよかったと言ってもらえます。それで誰も警戒しなくなった。地区の事情も大体私は分かっています。先ほど言われたように、ほんとになり手がいない状況です。

私もこの人が後継者だと思って当たっていますが断られる。昔と違います。昔は両隣助け合っていました。今はそれが全然ないですね。でも、やはり田舎のいいところは、遠くの親戚より近くの他人です。そういう考えでやっていますので、よろしくをお願いします。

委員 今の話に多少関連するんですけど、私も赤穂傾聴の会という、ボランティアの代表をしております、今コロナの影響がありまして、各施設とかで活動ができなく

て、実は今日も毎月1回例会をボランティアセンターでやらせていただいているんですけど、なかなか話を聞かせていただくチャンスっていうのが少なくて、それで訪問させていただくケースもあります。

やはり男の一人暮らしのところには女性が行くっていうのは、問題が起きた後では困るので、ですからそういうその男性から依頼があったときには、私ともう1人がペアを組んでとか、あるいは女性2人で、とかっていうことで、何かあったときに、できるだけ誤解が生じないように、というような配慮はしています。

特に独居男性のお宅に女性が1人で行くというのは、安心して行っていただきたいとは言えないんですね。

まず自分が下見をして、いけそうだったら、2人で行ってもらうんですけど、ボランティアの人数が、一時期は40名ぐらいいたんですけど、10人程度になっています。

ですから依頼があっても、なかなか対応ができません。例えば介護施設から、傾聴して欲しいと言われたので、希望の方と一対一で話を聞かせていただきました。このように、基本は一対一で、話を聞かせていただくことにしていますが、なかなか一対一で、込み入った話や自分の生身の感情を聞いてもらうのは、初対面では難しい面もあります。

ですので、何度か回数を重ねていかなければ、本当に自分が困っていることや、聞いて欲しい悩みを打ち明けるのに相手の懐に飛び込んでいくまでの時間が必要で、人の話を聞かせていただくということは、本当に難しいなとつくづく思っています。

ただ私も後期高齢者なので、自分で感じることは、やはり他力本願ではだめで、自分が何もしないのに、一方的に相手にばかり求めるというのはおかしいと思います。

ですから、やはり人に迷惑をかけないのは最低限のマナーですが、自分ができることを伸ばしていく、年を取ったからといって諦めるのではなく、人を批判的な目で見るのではなく、もう少しの前向きに自分の足で立ち上がって自立していただけるような方向に持って行っていただけたらなと思います。これも他力本願になりますけど。

話がずれましたが、32ページの、すべての人にやさしい福祉のまちづくりの推進がB評価になっていますが、その評価の根拠ですね。「ユニバーサル社会づくり推進のための意識啓発を実施した。すべての人に配慮した道路・施設整備の推進として福祉のまちづくり推進事業を実施し、道路の側溝整備や公共施設へのスロープの設置などを行った。」と記載されています。5年前もこの計画を策定するときのメンバーでしたが、この5年間で、具体的に何か変わったなと目につくようなことが思い浮かびません。なるほどなど、これはB評価だなと思える根拠を教えてください。

会長

2つありまして、1つは、お話を聞くことです。この辺りは、市のくくりとどう

反映するのは、なかなか直接的には難しいことです。しかし、それを支えるような基盤的なことは、市ができる範囲ではないかと思えます。これどういう形で具体化していくかということは、大事なところです。

2つ目は、32ページのところのB評価をつけた根拠です。

市としてはいかがですか。

事務局

社会福祉課です。

ユニバーサル社会づくりにつきましては、赤穂市は県内で先駆けて、10年以上取り組んでいるところです。

ユニバーサル社会づくりといいますのは、今ではSDGsという理念もございますが、それよりも一足早く、すべての人にやさしいまちづくり、そういった生活環境の場というようなことで、10年ほど前から、関西福祉大学とも連携をし、学生にも協力をいただきながら、この事業を推進しているところでございます。

基本的には理念の啓発という事業となっております。

毎年、関西福祉大学の先生や生徒の皆さんにご協力をいただきまして、高齢者、それから一般の社会人、あるいは子どもたちなど、年齢差を超えた集いの場、そういったものも、大学で、年に3回から4回開催していただいているところです。

開催場所といたしましては、関西福祉大学や加里屋のまちづくり会館などで実施をお願いしているところでございます。

2つ目の質問には、もう1つ柱がございまして、福祉のまちづくりということで、ハード整備についてです。市内の道路、あるいは公園等の施設がございすけれども、そういったところに、福祉的な配慮、福祉的な視点から、例えば点字ブロックを設置したり、防護柵や手すりを設置するなどのハード整備を行っております。

こちらにつきましては、予算の関係もございすし、ハード整備というのは資材費が高騰しつつある状況ですので、なかなか進まないところでございすますが、毎年大体、500万から600万ほどの予算をかけまして、このハード整備を行っているところでございす。側溝整備やスロープの設置については、すぐに目につくようなものではなく、地味な工事かもしれませんが、整備を進めております。

会長

他はどうですか。

委員

失礼します。

まず赤穂市の行政を中心で支えておられる、各課の課長さんにご出席を賜っておりますこと、まず感謝申し上げたいと思えます。

これだけの行政の実務のトップの方がなぜこの審議会に来ているか。この審議会が赤穂市の将来、総合計画を決めて、赤穂市の数値を決める大事な会であるから、皆さん来ていただいております。

その中で今日は中間報告ということで、いわゆるPDCAの中で、プラン、計画を立てて実行し、中間でチェックを入れて、この後のアクションに対応していこう

という会議です。

この中で、チェックという部分が甘いのではないかと。例えば、企画室、またコンサルの方、または我々審議会が分科会のような形で、3名ずつぐらいで各課のヒアリングを30分から1時間なり行い、それで評価を考えていくのが、本当の道筋ではないかと私は思っております。

ただ、皆さん、私どもと同じように、赤穂市市政について危機感を持っておられるので、皆さんが自分たちの指標に対して、評価されていることについては、当然厳しくチェックをされているし、また仕事についてのプライドも、我々はこれだけやっているのだという誇りも当然あると思います。

その思いをここで、チェックとアクションのところでは生かさなければ、本当に時間がありません。最近よく言いますが、赤穂市には時間がないです。

人口減と少子化、高齢化、そして、地域のコミュニティが崩壊しています、と言って検討を重ねて遅らせて済む話ではありません。

ですので、今回いろんな評価をしていただいている、チェックしていただく項目の中で、やはりそこに厳しくチェックを入れていただきたいと思います。

そして、あと2年、3年に対するプラン。ここをこう改善するんだというところをもう少し前向きに書いていただきたかったです。

何度も言っていますが、最初のプランで、なぜこれを指標に上げたか、その指標が正しかったかというチェックが、この中間報告のところにぜひ欲しかったと思っております。

皆さん業務が大変だと思いますけども、今、少し話を聞かただけでも、赤穂市のコミュニティの崩壊であるとか、今後非常に厳しい状態にあるというところが、日頃から分かっておられると思いますが、そういうところが指標に出てこなければ、何の総合計画の改善にもなりません。

だからその辺をもう一度、皆さんが日頃接しておられる市民の方に対して、いろんな意見を聞いていただいて、考えて欲しいと思います。

審議会のためのチェックリストを作っても何の意味はないと思うので、もう一度、PDCAはチェックでアクションですから、しっかりとチェックをしていただいて、次のアクションしていただきたいと思います。

具体的に言葉にするのが非常に難しいですが、本当に赤穂市には時間がない。私はそう思います。

会長

ありがとうございました。

総括の話にもなってしまうかもしれませんが、PDCAというのは、サイクルですよ。CAをしてまたPに戻らなければなりません。PDCAで完結ではありませんね。

日本の場合は、CしてAして総括して終わりになっています。次のPにどのように具体化するかということを、サイクルとして忘れてはいけません。

この評価は基本的に自己評価ですよ。皆さん方の自己評価の部分が少なくとも

ね、要素があります。

まずは、掲げた目標が周りから見ても妥当な目標であるかということ。要するに市民目線とすり合わさっているかが必要です。その次、評価は客観的でエビデンスがあるか。子どもで言うと、できる子ほどできてないという傾向があります。できてない部分だけができたと思うと非常に甘い。そうすると誰かの目をより添わさないと、ずれが起こってしまいます。自己評価をするときには気をつけなければなりません。3つ目は、やはり最終的には、前向きで健康的なことです。次やろうということにならない、と上手くいかない。

私は実は評価の方の領域の人間なので、いつもこのようなことを言っていますが、大事なことですよ。

自己評価っていうのはどうしても、自己完結になってしまいがちです。初めから立てた目標は本当に妥当かどうか、まさにメタ認知です。もう一度、大きなことは変えられない視点も変えられる部分は変えていき、終わりよければすべてよし。そのために、途中で終わりをどうしようかと見ているわけです。

できる限り、次の課題も上手に入れて、やっておく。委員が言われたようなことを上手に入れば、次また繋がっていくでしょう。

この辺をすごく大事にしていきたいと思います。

委員

観光協会でございます。

2つ申し上げたいと思います。

まず、赤穂市の人口という資料を見させていただきますと、1985年から2015年ぐらいまでの30年の間に赤穂市の人口は約5,000人減りました。

30年の間に5,000人減りましたが、2015年から2025年のたった10年の間にまた約5,000人減りました。

そのあたりを考えると、お話があったように、1985年から2015年ぐらいまでの間というのは、前と同じ数字あるいはその5%分は上乘せ、10%上乘せをした数字で、総合計画作っていただければ、行政の方頑張ってもらっているな、ということに進んだと思います。

しかし、どんどん人口が少なくなっているのに、今まで通り5%上乘せ10%上乘せみたいなことができるわけがありません。

私も行政におりましたので、5%減とか10%減ですと、職員みんな真面目ですから、何とかやっつけようと思うでしょう。しかし、50%減とか40%減になると、どうすればいいのか分からなくなり、やる気がなくなると思います。

目標値は2025年なり2030年の数値を上げていますが、それを今回更新し改めていくことが必要だろうと思います。時間がないのですから、荒唐無稽な数値を上げて、それに向かって頑張っています、って言ってもパフォーマンスに過ぎないと思うので、それはもうやめたほうがいいと思います。

もう1つは、中高生のアンケートについてです。当然その中高校生が書いていることなので、これはどうなんだというような話もちろんあります。

しかし気になる点が2つありました。

1つは、皆さんが悪いわけではありませんが、市民の夕べの花火大会がなくなったことへの不満がたくさんありました。これは中高校生の楽しみを奪ったということで罪が深いと思います。

2つ目は、今の中高校生の方が、楽しいお店がないとたくさん書いています。30ページに戻りますが、⑰番商店数というのが、当たり前ですけども減っている。

それとその下の有効求人倍率についてです。18年が1.33で、それか何年か1.06あたりで、コロナ禍の影響かと思ったら、2023年でいきなり0.9ということで1を下回っています。これは正しい数字でしょうか。観光の方では、人手不足でみんな困っているのに、0.9というのは、どういう根拠でしょうか。

会長 回答をお願いします。

事務局 商工課です。

有効求人倍率についてですが、確かにおっしゃるように1.26から2023年の0.9ということで下がっております。

私ども日々業務する中で、やはり人手不足はずっと実感しており、各企業さんからの声もありまして、その辺りの数字が有効求人倍率に現れてないということは、非常に感じているところです。ハローワークさんのお話の中でも、いろんな要因があるかもしれませんが、なぜ現れていないのかが、はっきりしない部分がありますので、有効求人倍率が指標としていいのかどうかも含めて次回の検討課題ということで考えております。

委員 有効求人倍率につきましては、商工会議所でも問い合わせをかけました。

これは本当にいわゆる求人と求職ですか、この部分のミスマッチです。ハローワークに求人を出してもこないのも、ハローワークには出してない。インディードなどで募集をして、ハローワークを当てにしてないというところが1つの要因としてあります。

地元の企業等が求めている求職、求人と、働きたい人が働きたいと思っている人とがハローワークの段階ではマッチングしないので、そこを両者が利用していないということです。

これは、大阪や神戸になりますとそんなことになっていませんが、たつの市や赤穂市ではこの状態が続いております。

ただ、それで人が足りているかと言ったら、今言われたように全然足りていません。それを含めて、いろんなリクルート活動や高校生の就職、またIターンUターンについては、しっかりと一緒に政策を考えていただければと思います。

会長 いかがでしょうか。

委員

この中高生アンケートを見ていると、6 ページで、まちへの愛着度という項目があります。大好き、あるいは、どちらかといえば好きという回答を足すと、73.3% 出ています。今の中高校生は、できることなら赤穂に住みたいと思っている生徒が多いのでしょうか。

たまたま、私の息子 2 人は赤穂に住んでいますが、就職というか、職場というか、働き口というか、そういったものを整えていくことが、やはり人口減少対策に少しブレーキをかけていく一番の取組だと思います。赤穂が嫌いならばどうしようもありませんが、こんなに好きだという人が、4 人のうち 3 人いるのに、人口が減少する理由を考えていただきたいと思います。

会長

皆さんありがとうございます。

愛着度のアンケートですが、5 つの回答でアンケートするのは、もう古いんですね。NTT等のアンケートをホームページですると、最後に 0 から 10 で 11 段階と なっています。これはどういうことかと 10 と 9 はいいんです。8 や 7 は付度、6 から 5 はアウトです。これが今のマーケティングでは、当たり前になっています。

大学でもそれを授業評価にしたいと思っていますが、周りが反対するためには いません。

要するに、この事業はよかったですかって聞くのではなく、この事業を他の人にも勧めますかと聞いて、0 から 10 なんです。真ん中に目盛りが入っていますので、そこから考えますから。

その辺のところは難しいと思いますが、場合によってはやってみるのも 1 つの手 です。これはコンサルタントの人に勉強して欲しいと思います。

せっかく今の話が出てきたので、残りの資料の説明をお願いします。

事務局

それでは、今回、お配りさせていただいております中高生のアンケート結果と、 市民ワークショップの報告書についてですが、まず、中高生のアンケート結果の方 から、簡単にご説明いたします。

2 ページをお願いします。

この調査は、市内の全中学校及び赤穂高校の生徒を対象に Web アンケートを実施 しました。回答率は 79.7% となっております。

5、6 ページのまちの住みやすさや愛着度です。

先ほどもお話ありました約 7 割が肯定的でその結果が、7 ページになりますけど、 将来赤穂市に住みたいかという設問において、進学、就職や結婚で赤穂市を離れる と思うが、いつか戻って住みたいとの回答が最も多い結果に繋がっているものと考 えております。

8 ページでは、赤穂市に住みたい理由として、生まれ育った町で親しみや愛着が あるから、家族や友人などから離れたくないから、というふうになっております。

ただ一方、9 ページには赤穂市に住みたくない理由としては、進学や働く場所、 人との出会い、都会の刺激や雰囲気といった、通常若者が抱く将来に対する思いが

反映されているものと考えております。

11 ページの希望する赤穂市の姿としては、働く場所も多く、様々な商店がそろったにぎわいのある街が最も多く、これは赤穂市に住みたくない理由と裏腹な関係、言い換えれば今の赤穂市にないものを、将来の赤穂市に望んでいる形になっているのではないかと考えております。

そうしたものが実現すれば、赤穂市に住みたいと思う生徒が 86%となっております。

こうした結果を受けまして、市としても、若者の希望を踏まえ、少しでも、若者に魅力のあるまちにするために、引き続き取り組んでいく必要があると、認識をしたところでございます。

次に、市民ワークショップの関係です。

1 ページをお願いいたします。

赤穂市を今よりも住みよいまちにするために、増やしたいもの、減らしたいもの、変わらないでほしいものというテーマで計 3 回、市民ワークショップを開催しました。

開催日時と参加者数は記載の通りです。

その下、3 のところで意見の概要をまとめております。

まず 1 点目として参加者の関心が高かったのはやはり、子育て支援、高齢者施策、防災ということになります。

赤穂市をはじめ、全国の自治体が直面する重要な 3 つの課題について関心が高い結果となりました。

子育て支援については、保育所、アフタースクールや病児保育の預かり枠や託児所といった、現状の施策に対する量的な拡充を望む意見と、高校生までの医療費無償化や給食費の無償化といった経済的支援を望む意見が出される一方で、子育てに悩んでいる家庭の負担軽減など、子育てのソフト面での質の向上が求められる結果となっております。

全ての回を通じて、子どもの人数が減少している市の現状に対して、これは大変なことだという市民の意識があらわれているものと考えております。

高齢者施策につきましては、先ほど委員の方からもご意見あったところなんですけれども、やはり、これまでとの少し違うところとしては、健康な高齢者を増やし、活躍の場でやりがいを増やしていくということで、人生 100 年時代に対応した施策というものも、求められているというふうに考えております。

防災についてですけれども、昨年、能登半島地震など、近年甚大な災害が各地で発生していることから、他人ごとではないという意識と、普段からの防災に対する取組の必要性が改めて確認されたものと考えております。

次に 2 点目は、日常生活の中で実感する意見として、ごみ、耕作放棄地、空き家、公共交通が挙げられております。

ごみの減量化につきましては、今後、施設の更新という課題がございますので、市民のご理解、ご協力を得ながら取り組んでいく必要がございます。

また耕作放棄地、空き家、公共交通については、なかなかすぐに実施できない部分があるんですが、引き続き継続して取り組んでいく必要があると考えております。

3点目は、まちの活力への期待、企業誘致、観光振興です。

先ほどの中高生のアンケート調査結果にもございましたように、若者が望む働く場が、赤穂市に求められております。

現在も企業誘致には精力的に取り組んでおり、一定の成果も出ております。今後さらなる企業誘致が望まれるところですが、やはり企業誘致というのは相手があることで、最終的には、いかに赤穂市を選んでもらうのかということになります。担当部署だけでなくあらゆる手段や人との繋がり等を活用して取り組んでいく必要があると考えております。

また観光振興につきましては、SNSの活用を初め、効果的なPRの仕方をさらに考えていくとともに、義士と塩だけに頼らない新たな観光資源や地域資源の活用を求める意見も出されております。

4点目は、人が集い触れ合う場を作ることになります。

多くの人触れ合い、集い、交流できる場、イベントだけでなくそれぞれの人のための居場所づくりも含めた場を求める意見が出されております。こうしたニーズへの対応も必要になってこようかと思っております。

最後5点目は、持続可能な行財政運営です。

私どもは、いろいろな機会や、アンケート、あるいは議員の皆様、また、市民の方々を通じまして、市民ニーズの把握に努めておりますが、それらを実現していくには、持続可能な行財政の基盤の確立なくしては、なしえません。

今後、人口がさらに減少していく中においては、多様な市民ニーズがある中において、あれもこれもではなく、選択と集中が求められます。

限られた財源と人材をいかに効率的に活用していくのが、行政に課せられた大きな課題であると考えております。

以上がワークショップの概要でございまして、4ページ以降には、それぞれワークショップで出された意見について、総合計画の柱ごと項目ごとに列記し、また、20、21ページには、転入者を増やすためにやるべきこと、22、23ページには、出生数を増やすためにやるべきこと、というくくりで意見をまとめておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

次回以降の会議におきましても、こうした意見も参考に、ご審議をいただけたらと思っております。以上です。

会長

大変貴重で重要な資料で、これはある意味で、目標を違う目の方から、寄り添わせるという、良いことになっております。先ほどのものと含めまして、ご意見ですからね。

はい。どうぞ。

委員

ごみの減量なんですけど、Cになってるんですけども、Bにしてもいいぐらい、ご

みの排出量については、こんなことを言ったらおかしいですけども、ごみ袋が有料化でもない、そして、赤穂市においていろいろされていますが、そんなに思い切った政策としては、ごみの減量化を市民にあまりアピールしていない。

再生利用プラスチックですね。ごみは生ごみよりもプラスチックの方が多いですね。生ごみは減ってくるけども、プラスチックごみは1個も減らないんですね。出たら出た分だけです。毎日見ていると、ほとんどがプラスチックなんです。よ。

この辺をもうちょっとやれば、あっという間にこの再生利用率がもっと上がってくるし、あんまり力入れてないのに関わらず、このごみの排出量なんか、当然人口も減ってるから、ごみも減ってるんでしょうが、他市はもっと分別処理やごみの袋を有料化したり、一生懸命やっています。

赤穂市というのは、市民がいいのかも分かりませんが、そんなにものすごく、全員がこれに取り組んでるかといえば、そうでもないような気がするのに関わらず、どんどん目標値を上げるということは、もっと啓蒙したら、僕はもっとごみを減てくると思うので。

ごみを出さないということは千種川の清流も良くなる。いろんな形で環境もよくなる。自治会もごみ箱を、毎年市民から要望されてごみ箱を増やす、という形になってると。

だからもっとごみの再生、資源化ごみとかそういったことを意識すれば、もっとこの豊かな自然環境、生活環境を保全するという項目は、もっとプラスが増えてくる。A評価が出てくるのではないかと思うので、その辺のところ、美化センターについて、僕は一生懸命やってもらってると思うんです。もっともっと市民がこのごみを集めてくれる、ごみを出さないということを意識すれば、もっと素晴らしいまちづくりができるのではないかと思います。これは、僕はC評価でなくてB評価でもいいかなと思います。以上です。

会長

啓発も含めてっていうことですけど市の方から、いかがですか。

事務局

美化センターです。

ごみの減量につきましては、今日、皆さん家に帰られて、生ごみを手で1つ絞ってください。そしたら減ります。

1人1日当たりのごみの量といいますのが、兵庫県下の中でかなり低いランキングにあります。そういった意味でも、まだまだごみの減量化を進める手だてはあると思っています。

4月からプラスチックの回収を各公民館でやる予定にしております。

こちらにつきましては、プラスチック製品、いくらか限定させていただいておりますけれども、プラスチックを普通の燃えるごみに出すのか、それとも容器包装のほうに出すのか、いろいろ分かりにくいところがあって、なかなか分別が進まないというところがあるのも承知しております。

その辺も、今後いろんな形でPRしたいと思っておりますけれども、新しい取組で、い

つも燃やすごみに出してはいますが、これもリサイクルになるんだというところをまず市民の方々に知っていただきたい、ということで新しい取組を始める予定でございます。

そのあともいろいろ考えて、新たなPRも考えていきたいと思っております。
以上です。

会長 他にいかがでしょうか。

委員 今ハンガーはほとんどプラスチックですね。
ハンガーは再利用の予定があると何かで見たことあるんですけども、私ちゃんと置いてるんですけどね。まとめて。

事務局 ハンガーはよくクリーニングでもらってきたら、最近はクリーニング屋さんが引き取ってくれない場合がありますので、家にたまっているとします。
今後は4月から、各公民館で始める拠点回収とボックスを置かせてもらうんですけども、そこにハンガーを入れていただきたいと思っております。
よろしく申し上げます。

委員 ありがとうございます。

会長 入れたハンガーはどうなるんですか。

事務局 美化センターの方で回収させていただきます。

会長 何か再生はするんですかね。

事務局 はい、リサイクルにつきましては、そちらの回収したプラスチックは、助燃材としてリサイクルされるという形になります。

会長 いかがでしょうか。
はいどうぞ。

委員 中学校の部活の移行というのがこの項目になかったもので、やはり5年前にはそういう話が全くなかったんだなと。

この5年って本当にコロナもあったり、いろんなことがあって、劇的に変化があって、特に私も会社で聞いたら、過去の常識は今の非常識だって言われて、もう物が言えなくなっただけです。

だから今日、市の職員のトップの方が来られてるんですけど、いろいろ課題がまた出てきたので、次回には、また足していくという話になるのでしょうか。

会長 いかがですか市の方で。

事務局 新たな課題への対応も含めた内容になってこようかと思います。

委員 今、C評価でできてないことばかりの話で、そこを直していけば良くなるからという話なんですけど、すごくできていることもあると思うので、そういうところをちょっと教えていただけたら、何か次のヒントになるのではないかなと思います。

やはり、この5年先で今考えるとしてもまた5年先、もっと早い変化があったり、市役所のインフラも、追いついていくのかなとかちょっと思ったりしてます。

すいません、意見かどうか分かりませんが、次回からまた、勉強させていただいて、提案したいと思います。

会長 いかがでしょうか。

委員 市民ワークショップの方で関心が高いところに防災があったんですけど、もうすぐ南海トラフが起きると言われている中で、中間検証結果報告書の方の54ページに書かれてある地域防災力の向上及び防災体制の充実のところ、危機管理担当の回答として、地区防災計画の推進その他、自主防災組織の育成強化と書かれているんですが、どういう自治会で地区防災計画が制定されてるのか、また、それがどこで、どれぐらいの数があるのか。また、自主防災組織というのがどれぐらいあるのか、南海トラフに関しては、公助が全く適用できないレベルのすごい災害になると思われているので、本当に市民の共助、自助によるに頼らざるを得ないという状況で、本当にここの地区防災計画は自主防災組織っていうのは、重要になってくると思うんですが。

ご回答いただければと思います。

会長 はい。お願いします。

事務局 危機管理担当です。

まず地区防災計画とは、どういうものかということだと思んですけども、この地区防災計画については、地域で助け合い、支え合いながら、災害からみんなが助けるために共助の計画ということで位置付けております。

地区防災計画につきましては、それぞれの地区の特性を踏まえた自主的な計画というものを作成していただくと、いうことになります。

ですから、赤穂市の地域防災計画につきましては赤穂市全体の大きな計画になるんですけど、その下に地区防災計画っていうものがありまして、これは各自治会それぞれに、自分たちの地区の特性に応じた計画を作っていただく、それが大きな大規模災害だけでなく、あらゆる災害に対応する計画になるものというふうに考えて

おりますので、そういうところの策定支援を今進めているところです。

地区防災計画ですね策定支援の取組につきましては一昨年から取り組みまして、現在のところは2地区の方から、地区防災計画の提案をいただいております。

これについては本年度、防災会議を開催する予定としておりますので、その中で、ボトムアップ形式を用いて、市の方にこのような計画ができましたのでという提案をいただきまして、我々が地域防災計画の中で、大きな災害があったときの計画を取りまとめて、反映させていくというものになります。

あと自主防災組織につきましては、97団体が自主防災組織の方登録していただきまして、例えば火災があったときにはホースを伸ばしていただいて初期消火に対応していただくような、訓練を行っていただいたりとか、あとは、台風の被害があったときに、情報を流すのに自主防災組織の計画に沿って情報提供して、災害対応いただくような組織活動をしていただいております。

これらの育成強化につきましては、普段の訓練とか、例えば赤穂市の方では防災総合訓練を11月に行っておりますので、そういうところで、市が主体になって、訓練の計画をするのではなく、この自主防災組織とか、これは自治会になるんですけど、そういうところが主体となって計画をしていただくということは、実効性のある計画、訓練になるということで、取り組んでいるところです。

委員

ありがとうございます。地域防災計画と地区防災計画がどう違うかは存じ上げておりますが、その違いを説明いただいた上で説明ありがとうございます。

あと市が主体にならずに、住民の方が主体になるようにという部分あるんですが、やはりもう少子高齢化でどんどん年齢層が上がってる中で、やはり市に頼らざるをえない部分とかっていうのもあると思うんですけど、そこら辺も考慮しながらやっていただければと思います。

以上です。

会長

計画を作ってもどれだけ浸透しているかというのと、その通り動けるかっていうのは、また別の話になってきますので、相当トレーニングをしておかないといけませんね。

他にいかがでしょうか。

委員

これ目標指標というのは今回の中間見直しで、見直すことがあり得るのかどうか。といいますのが52ページ、先ほど地域防災災害時安全ということで出ましたけれども、例えば、この目標仕様の、防災ネット情報ネット登録数が目標値8000と9500。

赤穂市民は4万人あまりおられると思うんですけども、この辺の設定でいいのか、また人数でいくのか、パーセンテージでやったほうがいいのかもします。

それからその下の個別支援計画の作成数。これは各年度実績数出てますけれども、これは必要な方はすべて作成済みなのか、いや、違いますと、作成が必要な方もおられるが、いろんな事情があって現在のところはこれだということであれば、率を示

すとか、率の方が分かりやすいんじゃないかなと、いうふうに感じました。

それから、88 ページ。

移住定住の促進でいろんな施策やられてます。定住相談会でありますとか、お試し暮らし住宅、有年にもできて2件になったんですね。

結果として、何人の方がこういう施策を利用して、赤穂に移住されたというのを目標指標にされた方が、後で検証しやすいんじゃないかなと、いうふうな感じがしましたんで、私が気づいたのは、2点だけなんですけれども、その他についても、人数で示してるのは率の方がいいのか。率の方が市民の方が読んでも分かりやすいんじゃないかなというふうに感じました。

以上です。

会長 いかがでしょうか、それにつきまして。

事務局 今、ご指摘いただきました通り目標指標につきましては、必要に応じて見直しを行ってまいります。

会長 どこにエビデンスを設定するかということなんで、その辺は、実質効果がある指標は何かということは、しっかり考えなきゃいけないかなと思います。

他にないですか。

委員 自主防災組織についてちょっとお尋ねしたいんですけど、各自治体では防災組織のフローチャートとかいろいろ組織図とか作ってるみたいですけど、もしその災害が日中に起きた場合に、どういう対応ができるのか。今、組織とかが完全に絵にかいた餅でしかないんじゃないか、という気がいつもするんです。

ですから、もしその日中に、かなりの大きな災害とかが起きた場合に、日中自宅にいる人ってそんなにいないんですね。

そうすると、その組織の中の役割は、誰がどう代わりをすればよいかなど、具体的な話が全然出てなくて、もう組織図ができたらもうそれでいいというような、極端なこと言えば、そんな感じになってるんじゃないかなという気がするんですけどいかがでしょうか。

会長 いかがでしょうか。

事務局 消防団担当です。

防災訓練、消火訓練等は我々消防職員が出向して指導してるんですけど、その中で、初期消火、避難、通報という、3つの項目で訓練を行っております。

日中に高齢者の方しかいない、女性の方しかいない場合に、初期消火ができるのか。通報できるのか、それはできると思います。

優先することを決めればいいので、危険と思えば避難をしていただくと、避難をしていただいて119番をして、本職を待つ。

だから、命は助かるということで、優先順位を決めて訓練をするように指導してもらっております。

以上です。

会長 啓発の何かが、まだ欲しいということですよ。

委員 今の説明では、私は納得がいけないんですけど。

もし、そういうその実験とかをやられて、それでうまくいったというならまだ分かるんですけど、机上の空論をされてもピンとこないです。

委員 自主防災組織っていうのは、基本的に自治会で作ってますんで各自治会の自治会長さんが役員会で集まった状態で、その中身に名前持ってる人っていうのは基本的に組長さんであったりとか、副会長さんであったり自治会の役を受けてもらってる人になっていただいています。

そこには自治会入っておられない方は、全くそれに関知することができないので、まず前提で自治会に入っていたかどうかということ。それで、各自治会の中で、消防署にお願いして消火訓練であったり防災訓練であったり、各自治会の中で案内を出してるはず。そこに、案内に出席していただいているかどうか、若しくは、市がやってる9連合自治会で毎年持ち回りでやってるんですけど、去年は城西地区だったと思いますが、その災害の大きな避難訓練に参加してもらってるかどうか。ベースとしては自治会にまず入ってもらってるかどうか、というところで線引きがされてますので、そこに加盟されてない人にはまずその連絡がいけないということになります。

それと入っていただいている方でも、仕事が忙しいとか、その日用事があるからということで、参加してない人もいます。ですので、いろんなことに協力していただいている方、また、自治会の役を担っていただいている方については、ほとんどその自治会の方に何か災害があった場合には、動かないといけないのは、各自治会長さん97人いますけど、思っておられます。そこに自治会の方がどれだけその自治会に参加するのかという意識は、その人の問題だと思っています。だからそこを何でも役所に頼むとか、自治会が何もしてくれないというのは余りにも無責任であって、自分の命をまず自分で守るというベースがあってからの共助であり公助であると思います。私も85歳の親が1人いますけど、私は仕事してるので、災害があった場合、命を落としてしまうかもしれない。でも、それは私でどうすることもできないことだし、それを助けることによって近所の人やまた、助けに行くと2次被害っていうことになることの方が私は耐えられないんで、だから、いつ災害が起きるか分からないっていうのは、自治会とか行政の問題ではなくて一人一人が、本来自分で考えておくべきことだと思うし、どこに逃げるのか、どうするかっていうことも、家族をベースに話をしてもらわないと、すべて自治会が悪いと言われるんだしたら全部自治会の行事に来てください、という我々側からの意見になってしまいます。

そこを、先ほどの話もそうですけど、一方的に何かしてくれ、例えば行政がどうにかしてくれというようなことでは、多分この総合計画も成り立たないと思うんですよね。市民一人一人、住民一人一人、そこが市に対してもそうだし、自治会にしてもそうだし、いろんなボランティア活動にしてもそうだし、いろんなことに、自分から関わっていきこうということがない限り、絵に書いた餅だと思います。85歳の方は、総合計画は知らないんですよ。市民の皆さんも知りませんよ。

知らん皆さんがこれをもとに頑張ろうという目標だと実は思ってたね。

釈迦に説法になるので皆さんにいちいち各論の話をする必要もないと思いますので、我々も市民も、やはりその市に対して我々が自分でできることをやっていきこうという姿勢も見せないといけませんし、それこそボランティアで代表されてる皆さんがそれぞれ役になっておられるわけですから、そこを何かこう、こっち側から提案して意見を言って何かを要望するだけでは、もう作らない方がマシやと思います。総合計画って別に作らなくてもいいんですよ、確かね。

だけど、一応赤穂市としては、全国的な自治体に倣って作るということで作りますけど、次回からなくてもいいんです。

それこそ人口減ってるし、こんなお金使ってコンサルさんがいる前で申し訳ないんですけど、余分なお金払うんだったら花火大会できるかもしれませんから。そういう意味でいくと、なくてもいいし市職員の皆さん、それぞれが自分たちの部署でそれぞれの目的意識持ってやっていただいて、市民がどう思ってるかって考えると、こんな数字のかけ離れたどうこういうような議論なんか要らんとします。

だから、見直すんだったらもう、逆にもうやめてもいいんじゃないかなというぐらいなところで1回見直してもらおうとか、次回の総合計画を作るのをやめましょよ、という議論があってもいいんじゃないかなと思います。

まとめに入ってますけど、とにかくですね、我々が言うことを市に何かをして求めて求めるようなことでは、多分これから先は絶対無理だと思います。まず人口が減る、もう関電さんなくなりましたけど、他も分かりませんよ。

どこの企業が今から撤退するか分かりません。住友さんなんかなくなったら、赤穂市にとっては、最終処分場なくなるわけですよ。でもあれだけ老朽化した工場毎年毎年メンテナンス無茶苦茶お金が入ってますけど、他市町が企業誘致したいから土地あげます、住友さんこっち来ませんかと言って、その地で新築建てた方が安いよとなったら、一気に変わる可能性だってあるわけですから。

それは関電さんの石炭発電の件々には分かってたわけですよ。

そうやって考えると、もっと危機感持った内容の計画にしようと思うと、全部チャラにしまってもいいと思うんですよ。市民もそれを分かってもらおうようにしようと思うとこんな計画がどうこうよりも、もっと赤穂市は深刻ですよということを皆さんから言ってもらわないと、もう役所がやってくれないのだから悪いばかり言われて、皆さん仕事して文句言われるばかりじゃないですか。そんなの面白くないでしょう。

だからそれこそ、腹の中で思っても何も言えないわけじゃないですか。だから、

本当に我々も協力するというような形のものがないといけないと思います。あと働き方改革という言葉ができたので、学校の先生、幼稚園の先生、保育所の先生は、絶対ボランティアしてくれませんから。今、土日は出てきてくれません。

我々、自治会が何かをお願いしても、土日に働いたら怒られるんですって言われるんですよ。そんな世の中になっています。

会長

要は、どれだけ市民が自分ごとにするか、っていうところなんですよ。

赤穂市はもうすぐ市議会議員の選挙ありますが、やはり自分ごとなんですよ。この1票を入れるということがどうなるかというふうな話を、真剣に考えてる人とそうでない人の差っていうのが、なかなか難しいところですよ。

まず、いかにいろんなことを自分ごとにするような施策を打っていくか。

それが市と民間と市民一人一人がやるっていう形になりますので、効果的な策をいろいろ考えてやっていただきたいなというようなことは思います。

いろんな意見が出て参りましたが、一応今年度の議論はこれで終わりたいと思います。来年度のことについては、事務局の方からお願いいたします。

事務局

長時間にわたってご議論いただきましてありがとうございます。

最後に私の方から本日のお礼と、それからまとめの形になりますが、まず、現総合計画は赤穂市始まって以来、初めて、人口減少という局面においてどんなまちづくりに取り組んでいくのかということについては大いに悩み、考えて策定した計画であります。

一方で、人口減少のスピードだけでなく、デジタル化や脱炭素とか、世の中の変化のスピードも加速化いたしております。

新たな行政需要や課題について過去からの知識とか、私どもが今身につけているようなノウハウだけでは、対処できない状況にあると認識しております。

ですから、何が正しいとか、こうすればいいというような「正解」は誰も持ち合わせておりません。

そうした中で、この総合計画において、今後の市政の方向性を見い出していかなければならないということが、一番難しいことだと感じております。

本日の議論の中で、目標の設定や課題の設定が果たして今、適切なのかというご指摘がございました。

我々の評価と市民の方々の感覚との乖離、それから現実とのアンマッチについては解消していかなければならないと思います。

ただ、この総合計画というのは、10年スパンという長期計画であり、基本的なまちづくりの方向性を決めるのが総合計画の役割であります。

一方で、最近の時代の変化や流れというのは非常に速いものがあり、その点で計画と現実との差が生じている部分もあると思います。

それから、委員からご意見のあった数値を掲げている施策と数値を掲げていない施策についてですが、目標を数値化することは、市民に見やすく、分かりやすいと

いうこともございまして、現計画を作るにあたりましては、できるだけ数値化をしようと、見える化に努めたところです。この点は今後も必要であると思っております。

それから個々の課題への方策についてのご意見もございましたけれども、先ほど来申し上げておりますように、総合計画というのは非常に大きな括りになっておりますので、個別の方策につきましては、それぞれ担当しております個別計画の中で取り上げております。

本日、各所管課長が来ておりますので、伺ったご意見については、それぞれの個別計画の中で反映していくようにすれば良いと思っております。

また、本日の議論にありました、目標設定については、所管課長もしっかりと聞いていたことと思いますので、見直すべきところは見直していただいて、なぜ見直したのか、なぜこういう指標を設定するのかという考え方を整理してまいりたいと思います。

最後に、来年度につきましては、見直し案について、ご協議をいただくこととなりますけれども、見直し案の作成のためにしばらくお時間をいただきたいと思います。

次回の審議会の日程につきましては改めて通知をさせていただきたいと思っておりますので、今年度の審議会はこれで終了となります。

以上よろしく願いいたします。

会長

最後になりますが、この際何か言い残したことがありますか。

(意見なし)

会長

随分前からね、いろんなところに健康というのが1つのテーマでいろいろやってきたんですね。企業のいろんなことも、健康というふうな。

でも健康って本当に、赤穂の健康を考えたときに、今何となく体の健康が、一生懸命皆さん考えておられますけど、心の健康っていうのもあるし、実は頭の健康もあるんですね。やはり活性化して生き生きと暮らしてもらうために、どうやればいいのかということを考えていかなきゃいけないかなと思います。

事務局の方が次のためにいろいろまた考えておりますが、我々の方もこの間に、今日の議論を1つ参考にして、どうあるべきかというふうなことについてそれぞれ考えて持ち寄って、来年度また、継続していきたいと思っております。

本日の会議はこれで終了したいと思います。

ご苦労さまでした。